

では δ が大きくなるものと考えられますが、現在では data が不足ですから今後 δ_2 の実測のデータを集めることが必要と思われます。

○(座長)寺沢 一雄君 詳しく減衰率について述べられ、高次振動が問題となつている最近、このような論文を御発表下さつたことに御礼を申し上げます。(拍手)

p.151~179

船の静的縦曲げモーメントに就いて

田 代 新 吉

○(座長)寺沢 一雄君 田代君の論文は力作であると思います。超大型船の bending moment が問題になつてゐる折からこのように、bending moment の性質を解明し且つ充分実用しうる論文をお寄せ下さつたことは、会員の喜びとするところで厚く感謝いたします。(拍手)

p.181~189

海洋波のなかの船体曲げモーメント

秋 田 好 雄

○(座長)吉識 雅夫君 只今の御講演に対して御質問、御討論をお願い致します。……時間も迫つてまいりましたので一言御礼を申し上げます。新しい海洋波の理論をお使いになり、最後には波高の問題を有義波高という形でまとめられています。波高の問題は船体強度に密接に関連するもので、この秋田さんの論文は大変貴重な論文であると思われます。拍手をもつて御礼申し上げます。(拍手)

p.191~197

上部構造の効きに関する研究

寺 沢 一 雄
八 木 順 吉

○(座長)吉識 雅夫君 只今の御講演に対し御質問、御討論はありませんか。

○山越 道郎君 194 頁(2)は Bleich の式を用いて繰返し近似を行つて居られますが、第1近似で誤差はどの位いですか。

○八木 順吉君 誤差は数%以下です。

○山越 道郎君 196 頁の平均歪とは shear lag によつて歪分布が減少しますが、その減少がない点の歪という意味と思いますが。

○八木 順吉君 この計算で直接求められる歪は shear lag を考慮して求められた有効断面積及び、有効慣性率をもつ仮想の構造の歪でありまして、これは例えば甲板では有効幅に均一に分布して居ります。この歪を平均歪と称したのでありまして、図に示された歪分布はこれを実際の曲線分布に還元したものであります。

○(座長)吉識 雅夫君 著者は度々 paper を出されておりますが、今回は上部構造がある場合に所謂 beam theory の適用の出来る範囲はどうか、shear lag を考えた one beam theory ではどうなるかを示され、縦強度の問題に進歩を与えられたものであります。拍手を以て御礼申し上げます。(拍手)

p.199~218

肘板を有する固定梁の実験について

山 口 勇 男

○(座長)吉識 雅夫君 只今の御講演について御質問、御討論はありませんか。